

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	222快適な公園・緑地環境の整備		
施策のねらい(めざす姿)	市民と行政が一体となって自然の緑地を保全し、さらに緑の空間の創造に取り組んでいます。		
基本目標	2「自然と社会が調和する環境共生都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	マネージャー氏名	萩原 勝

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	今後増えていく公園や緑地を効率的に維持管理するため、自治会等へ説明を実施し、地域の方々が積極的に参加できるよう、さらなる拡充をしていくとともに、長寿命化事業に基づき、計画的に施設を修繕・更新し、予算の平準化を図りながら取り組んでいく。	③改革・改善内容	公園サポーターの拡充を図るため、公園や植物に興味のある方が積極的に参加できるように広報による啓発活動と自治会へ説明を行い、担い手を確保し、市民・自治会と協働で維持管理をめざす。長寿命化計画や遊具の点検結果に基づき、国交付金、起債など財源を確保して、計画的に施設を改修・更新し、利用者の安全性、利便性の向上に取り組んでいく。
②①に基づく取り組み結果	公園サポーターとのコミュニケーションを密に行うことにより、公園サポーターがより維持管理しやすい環境を築いた。また、国交付金を活用し、第一新田公園などにおいて遊具の更新を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	都市公園 ふれあいの森	意図(対象をどうするのか)	整備、適正に維持管理することで、安全性や快適な都市環境を確保する。
②施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園やふれあいの森の計画的な整備 ・市内の良好なみどりの保全 ・都市公園やふれあいの森の適正な維持管理 			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市公園やふれあいの森の整備や管理に対する市民要望は高く、災害時の避難地としての役割や、かまどベンチの設置など、防災意識の高揚が見受けられる。都市公園の増加や施設の老朽化に伴い維持管理費は増加傾向にある。市民との協働管理においては、高齢化が進み、継続した活動が難しくなっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	市制記念公園の駐車場舗装工事、東道野辺ふれあいの森公園の整備工事を実施した。鎌ヶ谷一丁目、丸山三丁目ふれあいの森の用地買戻しを行い、旧第一学校給食センター跡地の公園整備等に着手した。桜×鎌ヶ谷＝魅力アップ事業は新鎌エリアに市民と協働で59本の桜を植樹した。緑の基本計画の改定に着手し、関連法、関連計画等の整理、基礎調査、市民意識調査を実施した。公園施設長寿命化事業により、遊具やフェンスなど35施設の改築更新を実施した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	市民一人あたりの公園面積	m ² /人	3.0	3.3	3.3	3.8
	ii						
	iii						
③基本事業成果指標	i	市民一人あたりの公園面積	m ² /人	3.0	3.3	3.3	3.8
	ii	公園等サポーター数	人	31	33	33	42
	iii						
	iv						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)		令和3年度予算		
事業費(千円)	542,235	460,784	(単位:円) 4,211円		474,644		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	公園に関する市民からの要望が非常に多く、維持管理費用、用地取得費及び施設の更新費用が必要であり、さらなる財源の確保が課題である。		
②総合評価	4未達成	③総合評価の理由	公園の用地取得や整備を鋭意進めたが、目標の達成には至らず、達成までは5ha程度の整備が必要。また公園サポーターについて一定の申込者があったが、高齢化などにより辞退する方もおり、目標を下回る結果となった。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑拡充
②上記方向性の説明	ふれあいの森の先行取得や旧第一学校給食センターの整備を行い公園面積の拡大を進め、多くの地域住民が公園サポーターとして参加することで、公園に対する愛着と意識を高める必要があるため。
③特に重点化する事務事業	街区公園整備事業